

プライベートクラウドへの移行

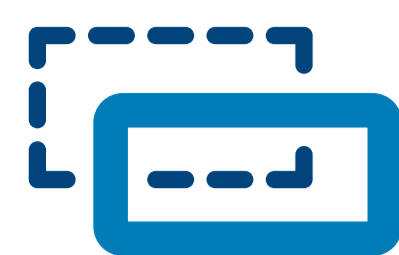
プライベートクラウドによって未来志向のエンタープライズになる方法



企業の規模にかかわらず、需要の増加に対応するための企業戦略の一環として、ITインフラストラクチャのある部分をプライベートクラウドに移行することが現実的になり、メリットが得られる可能性が高まりました。プライベートクラウドによって、データセンターの即応性、ハードウェアの有効活用、拡張性の向上、信頼性の向上、OSビルドの標準化、ITスタッフの工数の有効活用を実現する道が拓かれます。生産性、競争上の優位性、およびカスタマーサービスが向上し、ビジネスに対するITの価値が高まります。

クラウドへの進路

クラウドのメリットは、いくつもの重要な構成要素を導入することから始まります。一部はすでにインフラストラクチャに導入されているかもしれませんが、成功させるためには適切に活用する必要があります。



仮想化
プラットフォームの構成要素を提供



パフォーマンス
より高コストなパブリック・クラウド・プロバイダと同等



システム管理
IT機能とビジネスニーズの橋渡し



自動化とセルフサービスのオプション
アプリケーションの即応性を促進



管理とガバナンス
サービスとしてのクラウドの実現

未来指向型クラウドを構築する方法：

1

仮想化の能力を活用する

ほとんどの企業は、データセンターにすでにクラウドの鍵となる要素を導入しています。それは仮想化です。プライベートクラウド実装に向けた最初の一步は、高度な仮想化をサポートする業界標準のアーキテクチャを使用することです。

コンバージドインフラストラクチャをご検討ください。

標準ベースでモジュラー型のコンピューティング、ストレージ、およびネットワークの構成ブロックによって素早く簡単に拡張でき、コストも抑制できます。

3

アプリケーションの即応性を実現する

今日のエンドユーザは、クラウドからすぐに利用できるオンデマンドのサービスを求めています。統制のない状態でリスクの高いクラウドを使用されたり、「シャドウIT」が発生したりするのを防ぐためには、ユーザが求めるオンデマンドの機能を先回りしてサポートするのが一番です。

サービスカタログを実装して、自動化された重要なビジネスロジックを活用した一連のサービスを作成します。

クラウドアクセスを保護します。ユーザが社内アプリケーションやクラウドベースのWebアプリケーションにブラウザからアクセスできるように許可しつつ、セキュリティと効率も向上します。Dell Access ManagerまたはDell One Identity As a Serviceをご検討ください。

2

統合インフラストラクチャ管理を構築する

十分に計画された仮想環境こそ、プライベートクラウドに向かうための最初の重要なステップです。しかし、テクノロジー機能とビジネスロジックを組み合わせるこそ、プライベートクラウドを構築する意義が生まれます。

組織の要望をを検討します。ステークホルダー全員と話して問題を明らかにし、望ましいビジネス成果とテクノロジーとを対応付けます。

ビジネスロジックをITシステムに統合します。ワークロードに特化したテンプレートのある管理プラットフォームを見つけ、ITライフサイクルを自動化してください。Dell Active System Managerでは、オンデマンドの検出と導入が可能です。

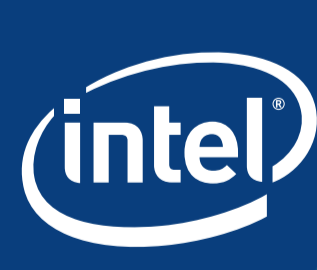
4

可視性とガバナンスを維持する

真に効率的なプライベートクラウドを稼働させるためには、運用、アプリケーション、およびコストをしっかりと把握することがきわめて重要です。しかし、それは簡単なことではありません。機能的なサイロによって部分的にしか把握できなくなる可能性があり、十分な監視機能を提供していないサービスもあります。

クラウド管理を一元化します。Dell Cloud Managerでは、アプリケーションがプライベートにプロビジョニングされたのか、パブリッククラウドにプロビジョニングされたのかを把握できます。

アプリケーションパフォーマンスを監視します。Dell Foglightソフトウェアでは、複数のテクノロジーにわたるエンド・ユーザー・エクスペリエンスについて継続的な知見を得ることができます。



将来のニーズに対応するプライベートクラウドの構築

柔軟性があれば、プライベートクラウドをビジネスニーズに合わせて変更することができます。また、規模を拡張したり、特定の機能をサポートしたり、変化するビジネス要件に素早く対応したりすることができます。しかし、多くのITプロフェッショナルはプライベートクラウドがハイブリッドクラウド戦略の一部とすべきであると気づき始めました。オンプレミスとオフプレミスのクラウドを統合することは避けられないため、これに対応できるようにテクノロジーを構築する必要があります。

需要の一時的な急増に対処するには、パブリッククラウドの容量を活用して安全なプライベートクラウドを補完できる、インテル®を搭載したデルのクラウドソリューションをご検討ください。デルのハイブリッドクラウドは、お客様のデータとプロセスをセキュリティリスクにさらすことなく、必要に応じて、プライベートクラウドが備える機密性とパブリッククラウドが備える大容量を組み合わせます。

デルが適切なアプリケーションと適切なクラウドインフラストラクチャを組み合わせるお手伝いをいたします。クラウドを自在に活用するために、ITコストを把握し、将来の進路を掌握してください。Intel Inside® 飛躍的な生産性を

詳細については、dell.co.jp/buildcloud を参照してください。

出典：『Cloud Comparison: Microsoft Private Cloud on the Intel-Powered Dell Solution vs. a leading public cloud provider (クラウドの比較：インテル搭載のデルソリューションによるMicrosoftプライベートクラウドと主要パブリック・クラウド・プロバイダの比較)』、Principled Technologies Tech Report (デルが委託)、2014年8月

Ultrabook, Celeron, Celeron Inside, Core Inside, インテル, Intel logo, Intel Atom, Intel Atom Inside, インテルCore, Intel Inside, Intel Inside logo, Intel vPro, Itanium, Itanium Inside, Pentium, Pentium Inside, vPro Inside, Xeon, Xeon Phi, およびXeon Insideは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標または登録商標です。

※ この資料には日本では提供されていないサービスに関する情報も含まれますこと、あらかじめご了承ください。詳細はこちらからお問い合わせください。